

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

株式会社プロクレアホールディングス（証券コード: 7384）

【据置】

長期発行体格付	A－
格付の見通し	安定的

株式会社青森みちのく銀行（証券コード: ー）

【据置】

長期発行体格付	A－
格付の見通し	安定的

■格付事由

- プロクレアグループは、持株会社であるプロクレアホールディングスの傘下に青森みちのく銀行などを擁する地域金融グループ。青森みちのく銀行は資金量 5.5 兆円の地方銀行で東北地区屈指の規模にあり、青森県内における預貸金シェアは 7 割超と地元で圧倒的に高いプレゼンスを有する。グループ信用力は「A-」相当とみている。地元における事業基盤は堅固で、おおむね良好な貸出資産の質は維持されている。収益力や資本充実度の向上が課題であるものの、今後本格化する統合シナジーの発現などにより改善が進むとみており、格付の見通しを「安定的」としている。
- 収益力は A レンジの地域金融機関として改善の余地がある。コア業務純益（投信解約損益を除く）は、預金利息の増加を貸出金利息と余資運用収益の拡大で打ち返すことで、25/3 期以降大きく増加している。一方、ROA（コア業務純益ベース）は 26/3 期 0.2% 台前半にとどまる。国内金利の上昇を背景とした利ざやの改善に加え、統合シナジーの本格的な発現によるコスト削減効果で収益力は改善していくと JCR はみている。
- 貸出資産の質はおおむね良好である。金融再生法開示債権比率は 1% 台後半で推移している。分類債権が総与信に占める割合は、公共向け貸出が多い点を勘案しても抑制された水準にある。与信費用比率は長期にわたり低水準で推移している。専門部署を立ち上げ、大企業向けシンジケートローンや再エネ関連のプロジェクトファイナンスなどへの取り組みを強化している。適切なリスク管理態勢のもと、今後も与信費用を抑制していけるか注目していく。
- 市場部門で抱えるリスクはやや大きい。円建債券のデュレーションは短く、資本対比でみた金利リスク量は小さい。一方、投資信託を通じて外国債券、国内外の株式、国内不動産などへと幅広く投資しているため、相応の価格変動リスクを抱えている。足元では株式投信などを積み増している。市況の変化に応じて機動的にリスクをコントロールしていけるか注目していく。その他有価証券の評価損はやや大きい。インカム収益の拡大や株式評価益などを活用し、評価損の処理を進めている。
- 資本充実度は格付対比でやや低い。グループ連結の調整後コア資本比率（繰延ヘッジ損益考慮後）は、26/3 期末 7% 台半ば。今後は、バーゼルⅢ最終化に伴う経過措置の影響に加え、貸出金や有価証券など投融資残高の拡大がリスクアセットの増加要因となりうる。内部留保の蓄積や評価損の圧縮などにより、資本水準を高めていけるか注目していく。

発行体：株式会社プロクレアホールディングス

プロクレアグループの金融持株会社。長期発行体格付はグループ信用力と同等としている。ダブルレバレッジ比率が一定の水準以下で推移しており、財務運営方針などを踏まえると今後もキャッシュフロー・バランスの安定性は維持されるとみられることから、持株会社の構造劣後性を反映していない。

発行体：株式会社青森みちのく銀行

プロクレアグループの中核銀行。長期発行体格付は、グループにおける中核的な位置付けなどを踏まえ、グループ信用力と同等としている。地元での強固な調達基盤を活かし低金利での預金調達を実現している。貸出金についても、県内の残高が弱含む中、合併作業に要していた経営リソースを営業推進へシフトするほか、県外の事業性貸出などを取り込むことで一定の貸出金残高を維持している。

(担当) 木谷 道哉・山本 恭兵

■格付対象

発行体：株式会社プロクレアホールディングス

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A-	安定的

発行体：株式会社青森みちのく銀行

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A-	安定的

格付提供方針等に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2026年9月30日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：宮尾 知浩
主任格付アナリスト：木谷 道哉
3. 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2024年10月1日）、「銀行等」（2021年10月1日）、「金融グループの持株会社および傘下会社の格付方法」（2022年9月1日）として掲載している。
5. 格付関係者：
(発行体・債務者等) 株式会社プロクレアホールディングス
株式会社青森みちのく銀行
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
 - ・格付関係者が提供した監査済財務諸表
 - ・格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. 格付関係者による関与：
本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。
10. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ（<https://www.jcr.co.jp/en/>）に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル